

弘前大学
教育学部紀要

第 119 号

平成30年3月

Bulletin of the Faculty of Education
Hirosaki University

No. 119

March 2018

弘前大学教育学部

Hirosaki, Japan

目 次

新潟長岡「斯道館資料」の往来物について	郡 千寿子 (1)
地域と世界を繋ぐ社会科学習のデザイン —三つの学習アプローチの提案—	小 瑠 史 朗 (9)
青森県中学生の放射線に関する認識調査結果の分析 及び放射線学習モデル授業案の提案	小 倉 巧 也 (21) 長 南 幸 安
中学校理科学習指導要領における放射線の取扱い分析 及び放射線学習に寄与する実験法の開発	小 倉 巧 也 (25) 長 南 幸 安
韓国の科学教育における創意性と S T E A M —現行カリキュラムの初等教育段階生命領域を中心に—	佐 藤 崇 之 (29)
会話の分析を通して見た協同学習における 児童・生徒の科学的認識の形成過程	東 徹 (37) 菅 原 雄 貴 相 馬 恵 子
地域住民を対象とした「食育・健康講座」に関する調査結果の概要と今後の課題	早 川 和 江 (47) 加 藤 陽 治
H. リーマン「軽重法：楽節構造論」試訳 (3)	朝 山 奈 津 子 (55)
音楽、ことば、身体をめぐって：高橋洋子『通りゃんせ』を読む	今 田 匡 彦 (67)
障害者権利条約の初回報告(案)に対するパブリックコメントに寄せられた意見の分析 —第 24 条（教育）を中心に—	中 山 忠 政 (77)
本吉保育論の実践構築原理 —自由保育の方法論に関する試論—	武 内 裕 明 (83) 井 上 裕 美 子 加 藤 緑
地域社会における若者支援活動の生成と学び	松 本 大 (95) 廣 森 直 子 小 林 建 一
「考え、議論する道徳」授業の条件 —村越含博の実践をもとに—	村 越 含 博 (107) 中 妻 雅 彦
教職大学院のティームティーチング授業を進める研究者・実務家教員の役割 —授業科目「教育課程編成をめぐる動向と課題」を受講する学生の意見をもとに—	中 妻 雅 彦 (117) 成 田 頼 昭 森 本 洋 介
教員間の協働が学校の「民主性」にもたらす影響 —教員及び保護者を対象とした質問紙調査結果の分析を通して—	三 浦 智 子 (127)
中学校における学級活動の雰囲気と学級風土の関連について	吉 崎 聡 子 (137) 平 岡 恭 一

弘前大学教育学部紀要刊行及び投稿規定

弘前大学教育学部 研究推進委員会 紀要編集担当

1. 本紀要は本学部で行われた研究の成果を公表することを目的に刊行する。
2. 発行は原則として各年度の10月及び3月の年2回とし、各号はA4版で約150ページとする。
3. 原稿の締切は概ね7月下旬及び1月上旬とする。
4. 論文の著者には本学部の教員が含まれていなければならない。
5. 論文の本文は横書きの和文又は英文を原則とする。
6. 各論文の長さは図表等を含めて刷り上がり10ページ以内とする。なお、印字の大きさは9ポイント活字相当とし、1印刷ページは和文で1行24字、45行の2段組で2,160字とする。英文等の場合は1段組とする。
7. 原稿の作成に際しては所定の執筆要領（別掲）に従うものとする。
8. 掲載順序など、編集に関することは研究推進委員会紀要編集担当が決定する。なお、論文の内容等について疑義が生じた場合、本委員会は著者と協議し、必要があれば訂正等を求める。
9. 原稿の受理後における内容の変更等は認めない。
10. 校正は原則として著者が行い、2校までとする。
11. 論文が11ページ以上に及ぶ場合や、カラー印刷や図版の作製などに特別の経費を要する場合には、その経費は原則として著者負担とする。
12. 刊行経費が予算を超過した場合、超過分を著者の按分負担とすることがある。
13. 別刷を希望する場合は、投稿の際に必要な部数を申し出る。経費は著者負担とする。
14. 本紀要に掲載された論文の著作権は当該論文の著者に帰属する。ただし、本委員会は掲載された論文を電子化し、「弘前大学学術情報リポジトリ」に掲載して公開することができるものとする。

この規定は、平成20年4月から施行する。

弘前大学教育学部紀要執筆要領

1. 原稿は、手書きの場合字数が明確になるよう原稿用紙に記載する。また、タイプライターやワードプロセッサ等を用いる場合にはA4版の用紙に印字する。なお、パソコン等による原稿には、使用したハードウェア及びソフトウェアを明記したUSBメモリ、CD-R等を添付することが望ましい。
2. 原稿には論文題名、著者名及び所属が和英両語で記載されていなければならない。なお、英語に変えて、他の汎用性の高い言語を用いてもよい。
3. 本文の前には同一の言語による要旨（Abstract）及び、キーワードを置く。要旨は和文の場合には400字以内、英文等の場合には120語以内とする。なお、更に別の言語による要旨をおいてもよい。キーワードは数語以内とする。
4. 文献の引用は原則として本文中の該当個所の右肩に片括弧付きの番号で表示し、出典は本文末尾に一括して記載する。その際、雑誌の場合は著者名、論文等の題名、掲載誌名、巻・号、ページ、発行年を、また単行本の場合は著者名、書名、出版社名、ページ、発行年を記載することを原則とする。
5. 印刷に当たって指定したい事項（字体、下線、図表の挿入個所など）は原稿内に朱書するなどして明示する。
6. 図表（写真、楽譜等を含む）はなるべく少数にとどめ、本文原稿中に挿入することは避け、原則としてひとつずつA4版程度の白色台紙に貼り添付する。なお、図表の表題、指定事項等は台紙の端に記載する。また、図表は直接製版できるよう明確なものとし、図中に文字などを写植する必要がある場合には明確に指示する。
7. 原稿の提出に際しては規定の「投稿申込書」を添付し、紀要編集担当者に確認を受ける。

研究推進委員会 紀要編集担当

朝 山 奈津子 (代表)
武 内 裕 明
野 呂 徳 治
山 本 稔

弘 前 大 学
教 育 学 部 紀 要
第119号
(2018年3月)

平成30年3月23日印刷
平成30年3月28日発行
編集兼発行者
弘前大学教育学部
弘前市文京町1番地
電話 (0172) 36-2111(代)
印刷所 小野印刷
弘前市富田町52
電話 (0172) 32-7471(代)

CONTENTS

Investigation report on "OURAIMONO" documents of Nagaoka City Library possession: A study of documents transmitted to SIDOUKAN	Chizuko KOHRI (1)
Design for Community Learning from a Global Perspective in Social Studies	Fumiaki KODAMA (9)
Analysis of Understanding about Radiation with Junior High School Students in Aomori Prefecture and Proposal of a Model Lesson Plan for Learning Radiation	Koya OGURA (21) Yukiyasu CHOUNAN
Analysis of Handling of Radiation in Junior High School Science Teaching Guidelines and Development of Experimental Method Contributing to Radiation Learning	Koya OGURA (25) Yukiyasu CHOUNAN
Creativity and STEAM on Science Education in South Korea Focus on Primary School Biology on the Recently Revision of Course of Study	Takayuki SATO (29)
Formation process of scientific perceptions of students seen through analysis of conversation in cooperative learning	Toru AZUMA (37) Yuki SUGAWARA Keiko SOMA
A summary of survey results about "dietary education and health lecture" for local residents and future tasks	Kazue HAYAKAWA (47) Yoji KATO
H. Riemann, „Metrik. Lehre vom musikalischen Satzbau“ aus <i>System der musikalischen Rhythmik und Metrik</i> (1903): Versuch einer japanischen Übersetzung (3)	Natsuko ASAYAMA (55)
On Yoko Takahashi, her words, music and body	Tadahiko IMADA (67)
Analysis of Public Comments about the Japanese Government's "Initial Report for the Convention on the Rights of Persons with Disabilities": Focusing on CRPD Article 24	Tadamasa NAKAYAMA (77)
The principles constituting the practice of Motoyoshi:..... A consideration of Jiyu-hoiku methodology	Hiroaki TAKEUCHI (83) Yumiko INOUE Midori KATO
A Study on Learning and Development of Youth Support Organizations in Community	Dai MATSUMOTO (95) Naoko HIROMORI Kenichi KOBAYASHI
Class Method of "Moral Education through Deliberating and Discussing": With Reference to Murakoshi Fukuhiro's Class Practice	Fukuhiro MURAKOSHI (107) Masahiko NAKATSUMA
The Role of Practical Teacher and Research Teacher for Fostering Team- Teaching in Graduate Schools of Education: Based on The Comment of Questionnaire Survey in "Trends and Issues on Curriculum Organization"	Masahiko NAKATSUMA (117) Yoriaki NARITA Yosuke MORIMOTO
The effects of Teachers' Collaboration on Democracy in School Education.....	Satoko MIURA (127)
The relationship between atmosphere of the class activity and classroom climate in a junior high school	Satoko YOSHIZAKI (137) kyoichi HIRAOKA